

令和5年12月1日（金）「第13回 地域づくり小委員会」が開催されました。

■開催概要

「第13回 地域づくり小委員会」が令和5年12月1日（金）に釧路地方合同庁舎5階第1共用会議室でWEB会議を併用して開催されました。今回は再生普及小委員会との合同開催により、両小委員会の委員37名（個人16名、団体9団体9名、オブザーバー2団体2名、関係行政機関8機関10名）（一部兼任）が出席されました。

議事では、各委員の取組として、環境省から「国立公園ブランドプロミス」「ロングトレイル」、標茶町地域おこし協力隊伊藤氏・炭田氏から「かわたび×うまたび」、(株)北開水エコンサルタント石黒氏から「釧路川トイレ設置」、釧路開建から「インフラわくわくツアー」について話題提供いただきました。小委員会取組状況として、農業事業者との連携継続、自然再生事業箇所への利活用の推進、カヌーガイドラインの見直しの報告があり、意見交換が行われました。



▲第13回地域づくり小委員会（令和5年12月1日）

■地域づくり小委員会とは（構成員（第11期前期）：個人37名、団体28団体、オブザーバー5団体、関係機関9機関）

地域づくり小委員会は、地域産業と連携した湿原のワイズユースにより、湿原を保全・再生し、将来にわたり地域産業が豊かになる取組を進めるために設立されました。

今後は、賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方と、湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について、議論を進めています。

1 委員事案（各委員の取組内容報告）

■国立公園ブランドプロミス

○概要

環境省では国立公園のブランドプロミスを定め、その実現のため地域・関係者と一緒に取り組むブランディング活動を設定した。釧路湿原においては特に、自然環境の保護・再生を進めながら、持続可能な地域づくりや、物語（ストーリー）に沿った自然体験コンテンツを作っていくことが重要だと考えている。

○意見交換

・自然保護のアピールがもっとあった方がよいのではないか。利用の推進と併せて自然再生・保護はどのように推進していくのか。

→自然環境保全が大前提としてある。保全した上で適正な利用を推進していくという考えである。

■ロングトレイル

○概要

環境省では、2024年秋の「北海道東トレイル」開通を目指している。トレイルが通過する自治体や国交省、林野庁、北海道と連携して進めてきた。

○意見交換

・（紹介されたPR動画について）インバウンド向けの字幕版は作成するか。

→準備中であり、通常版と字幕版を同時公開予定である。

・利用する際の自然再生・保護についてどう推進していくのか。

→トレイル憲章を作り、そこで明確に示したい。また、トレイル周辺の農地や牧草地などへ立ち入りしないよう周知を徹底していく予定である。

・ロングトレイルの位置付けはどのようなものなのか。

→北海道東トレイルは、新たに環境省が整備するものではなく、各地域のトレイルを長く一本に繋がった道としてブランド化を図り世界に発信する取り組み。

・トレイルのPR映像には野生動物情報も入れてほしい。

■かわたび×うまたび

○概要

標茶町は乗用馬を活用した観光を推進しており、河川空間を活用した本取組を2021年から開始し3年目になる。10/28、11/1に釧路川右岸堤防を活用したホーストレッキングのテストツアーを実施した。

○テストツアーを終えて

専門家へのヒアリングも実施し、このツアーを通して、釧路湿原の保全と利用、地域の歴史や文化についても学べるようなツアーを目指したいと考えている。

■釧路川トイレ設置

○概要

(株)北開水エコンサルタントは昨年に引き続き、地域貢献の一環として仮設トイレを設置した。今年は釧路カヌーネットワーク協会、釧路川の維持管理を請負う開成建設工業(株)、辻谷建設(株)と共同でカヌーポート細岡駅と岩保木水門の2か所で実施した。

○仮設トイレの利用状況・維持管理

・利用実態調査の結果、2か所とも施設利用者の約25%が仮設トイレを利用し、高い利用率となった。

・3者の共同で、昨年の経験を踏まえ計画的な維持管理を行い、利用者のモラルにより大きな問題は発生しなかった。

・今年度は3者の協働により、仮設トイレを設置することができた。来年以降については、費用の在り方や労力を含め検討したいと考えている。

■インフラわくわくツアー

○概要

釧路川、釧路湿原周辺の二つの遺産、釧路川の歴史、湿原の保全と価値について学ぶ日帰りバスツアーを開催した。

参加者からは、釧路川右岸堤防など普段は入れない場所の見学が高評価であった。

2 小委員会事案

小委員会事案の報告が行われました。

報告された主な内容

～農業事業者との連携継続～

地域づくり小委員会では令和3年度から釧路湿原周辺の農業事業者へのヒアリングを実施しており、今年度は鶴居村の農業事業者として、(株)伊藤デイリー伊藤氏へのヒアリングを実施した。

ヒアリングでは以下のことを聞くことができた。

- ・バイオガス発電施設を所有しており、自社で発生した糞尿・汚水は外に排出せず自社内で処理している。
- ・現在酪農業は厳しい環境にあり、昔と比べて酪農家が減っている。
- ・未利用地は農家と意見交換をしたうえで再湿地化をしていくにはいいタイミングだと思う。



▲農業事業者へのヒアリング



▲発電施設の視察

～カヌーガイドラインの見直し～

令和元年度から更新を行ってきたカヌーガイドラインについて、河道整備状況や現地状況を踏まえて記載内容の見直しを行った。



▲カヌーガイドライン(R5修正版(案))

～自然再生事業箇所の地域づくり利活用の推進～

自然再生事業箇所の利活用を推進するため、自然再生事業が多く実施されている標茶町・鶴居村と、現地視察や意見交換を実施した。標茶町とはヌマオロ地区の旧川復元箇所の現地視察を実施し、活用の可能性等について意見交換を実施した。

鶴居村とは幌呂地区の湿原再生箇所の「幌呂地区レイアウトマップ素案」をもとに具体的な活用方法について意見交換を実施した。



▲標茶町との現地視察



▲レイアウトマップの素案



▲小委員会の実施状況

(左:意見交換時、右:委員長発言時)



▲委員事案の報告状況

(左:かわたび×うまたび、右:釧路川トイレ設置)

第13回地域づくり小委員会・第39回再生普及小委員会 [出席者名簿(敬省略、web参加者含む)]

個人 [16名] 五十音順

川西亮太	櫻井一隆	鈴木信	中村研二
神田房行	貞國利夫	高嶋八千代	平岩誠
君塚孝一	新庄興	高橋忠一	平間清
坂井一浩	新庄久志	照井滋晴	山本太郎

団体 [9団体/9名]

こどもエコクラブくしろ [近藤一燈美]
釧路川カヌーネットワーク [小川清史]
釧路国際ウェットランドセンター [元岡直子・佐藤英樹]
釧路湿原国立公園連絡協議会 [元岡直子・佐藤英樹]
特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ [百瀬邦和]
国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 [柿沼孝治]
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [芳賀孝朋]
特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所 [小林恒平]
特定非営利活動法人 くしろ・わっと [上野岳]

オブザーバー [2団体/2名]

標茶町商工会 [松本修]
弟子屈町商工会 [豊島洋樹]

関係行政機関 [8機関/10名]

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [菅野法之]
環境省 釧路自然環境事務所 [柳川智巳]
北海道教育庁 釧路教育局 [角田淳]
北海道 釧路総合振興局 [北館則隆]
林野庁 北海道森林管理局 [南達彦]
釧路市 [元岡直子・佐藤英樹]
釧路町 [森末恵悟]
標茶町 [河村晃・菊池将平]

話題提供 [2団体/4名]

標茶町地域おこし協力隊 [伊藤里恵・炭田晃希]
株式会社 北開水工コンサルタント釧路支店 [平澤陽一、石黒大輔]

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会
運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839